

【 シンポジウム 】

2018年診療報酬改定による当院の高気圧酸素療法症例数の変遷

西山和芳 兵藤好行
愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院 臨床工学室

【要約】

2018年に診療報酬が改定され高気圧酸素療法の診療報酬が適正化されたことは記憶に新しく、これまでの適性診療報酬とは言い難い状況が改善された。この診療報酬改定が当院に与えた影響は大きく、まさに状況が一変した出来事であった。診療報酬改訂前の2015年度、2016年度の当院の治療件数は400件/年ほどで停滞しており、院内での普及状況も限定されたものであった。それに加え、装置の更新時期が迫っていた事もありHBO業務からの撤退が病院運営サイドでは検討されていた。そこで我々は診療報酬改定に伴い適応疾患およびエビデンスについて改めて医師への周知活動を行い症例数は飛躍的に向上した。2015年度は428件であった治療件数が2021年度には1446件と3倍以上に増加、診療報酬の改定が一因であることは間違いないが、医師への普及活動の重要性を痛感した。しかし件数増加に伴い診療時間外の治療が多くなるという問題が生じ、スタッフへの負担はもとより夜中までおよぶ治療は患者への負担を強いることになった。その問題を解決するため2022年3月に当院で2台目となる装置が導入された。増加していく件数に対し、安全でより良い治療を提供できるよう、専門医、専門技師を中心として、今後もHBOを普及させていきたいと考える。

キーワード

普及活動, 件数増加, 2台体制

【Symposium】

Transition of Hyperbaric Oxygen Therapy at our hospital due to medical fee revision in 2018

Kazuyoshi Nishiyama, Yoshiyuki Hyodo

Department of Clinical Engineering Technology, Toyota Kosei Hospital,

【abstract】

The reimbursement for hyperbaric oxygen therapy was revised in 2018, improving a situation that could have hardly been called optimal. The impact of reimbursement revision on our hospital was a game-changing event. Before the revision, in 2015 and 2016, the number of treatments at our hospital had stagnated at around 400 cases/year, and indications for hyperbaric oxygen therapy were limited to certain departments in our hospital. In addition, the hospital management was considering withdrawing from HBO services due to the impending equipment replacement. Following the revision, we conducted a campaign to inform physicians about the evidence-based indications for HBO and the revision of medical fees, which dramatically increased the number of HBO cases.

In 2021, treatment cases tripled from 428 in 2015 to 1,446. No doubt this was due in part to the revision of medical fees. However, with the increase in the number of cases came the problem of treatment outside of office hours, which placed a burden on the staff and the patients who had to stay up late into the night. Thus, in March 2022, we introduced a second HBO chamber in service. In order to provide safe and better treatment for the increasing number of cases, we will continue to promote the

use of HBO, mainly by medical specialists and technicians.

keywords

information campaign, HBO treatment volume, multi-chamber units

1. 背景

2018年に診療報酬が改定され、高気圧酸素療法(Hyperbaric Oxygen therapy: HBO)の診療点数が適正化されたことは記憶に新しい¹⁾。救急適応疾患に対して5000点、非救急適応疾患に対しては200点と疾患による診療報酬の差は大きく、HBOを行う病院にとって適正な診療報酬であったとは言い難い状況であった。当院でもHBOを行う上でその問題は大きく、HBO治療件数が横這いであり治療を行う診療科も限定的、さらに装置の更新時期も迫っていたこともあり、改善策を打たなければHBO業務の存続も危ぶまれる状況でもあった。そんな中での診療報酬の適正化が当院に与えた影響は大きく、まさに状況が一変した出来事であった。

2. 目的

診療報酬改定がHBO装置保有施設に与えた影響は大きい。その影響例の一つとして、当院の診療報酬改定から2台目となるHBO装置の導入に至るまでの経緯をまとめたので報告する。

3. 改定前の状況

診療報酬改定前の2015年度、2016年度の当院のHBO治療件数は400件程であり、施行件数は停滞していた。治療を行う診療科も耳鼻咽喉科、消化器外科が主たるところを占め、院内での普及状況も限定されたものであった(図1)。そんな中、HBO装置の更

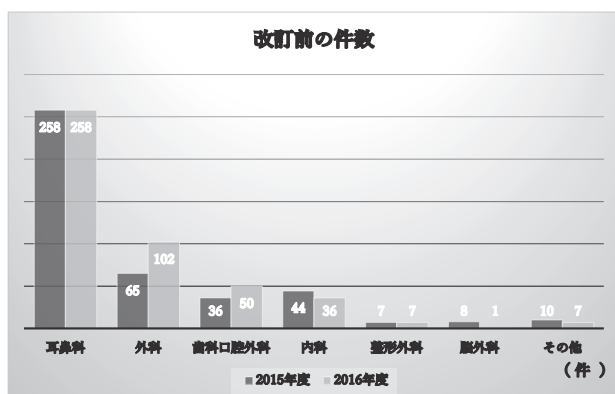


図1：診療報酬改定前の診療科別件数

新時期が迫ってきていたことに加え、当室内での業務範囲拡大による人手不足もあり、HBO業務からの撤退も考慮される状況にあった。主たる疾患が突発性難聴であるため非救急適応疾患となることが多く、機器の更新に際して経営的問題点にもなっていた。HBOは治療時間が長く、数件の治療件数でも人員の拘束時間は必然として長くなるため、当時少数の人員しかいなかった当室にとって業務範囲拡大に伴う人手不足は看過できない問題であった。しかし、HBOが当院で必要とされていることもまた事実であり、東海地方でHBOを行える数少ない施設として存続する必要があると思われ、存続に向けて院内での普及活動に着手することとなった。

4. 普及活動の方法

当時の問題点として件数の停滞以外にも装置の更新に伴う費用の捻出など問題があった。HBO装置は安価ではないため、更新となれば多額の費用が発生する。HBOからの撤退を避けるためにはやはり治療件数の早期増加が急務であった。最初の取り組みとして、それまで症例数の多かった診療科への働きかけを行った。医師は病院間の転勤が多く、毎年人員が流動的になる傾向がある。前年はHBOへの理解がある医師が在籍していたとしても、翌年も同じであるとは限らない。HBOは残念ながらメジャーな治療とはいえず、その存在は知っていても治療効果などを明確に知る医師は少ないと思われる。その対応として当時、当院のHBO症例の大部分を占めていた耳鼻咽喉科、外科に対してHBO件数増加に対する打診を行った。HBOの効果やエビデンスなどを周知するとともに件数の増加への協力を要請した。普及活動を行っていた折に診療報酬改定が行われたことを受け、さらなる普及活動を行うことで件数の増加へと着手をした。それまで治療件数の少なかった形成外科、泌尿器科、皮膚科、血管外科など、HBOの治療効果が高く見込まれるが院内での普及が足りていなかった診療科に対して同様の普及活動を行った。

5. 結果

当初治療件数は400～500件/年ほどであったが、症例数の多かった診療科へ周知活動を行った結果692件まで合計治療数は増加した。内訳は2015年度での救急疾患が172件、非救急疾患が255件、合計が428件。2016年度では救急疾患が229件、非救急疾患が231件、合計が461件。2017年度は救急疾患が501件、非救急疾患が182件、合計が692件となった(図2)。症例数の少なかった診療科に周知活動を行った結果、症例数が飛躍的に向上した(図3)。全体の治療件数も増加傾向を示し、2015年度は428件だった件数が2021年度には1446件まで増加した(図4)。2017年は非救急疾患が減少しているが、これは周知活動の結果、突発性難聴の紹介が早くなり救急疾患に件数が移行したためである。

6. 結果に伴う問題点

普及活動の甲斐があり治療件数は著しい上昇を見せたが、件数の増加により新たな問題が発生した。HBOは1件にかかる治療時間が加圧時間、減圧時間にもよるが最低でも1時間以上の時間を要する。当院の治療プログラムでは1件につき80分の治療時間が必

要であり、診療時間である17時までには終わることのできる件数は5件が限界であった。当室の方針として依頼のあった症例は基本的には全て施行する。増えた件数に対応するために1日に10件の治療を行うこともあり、これによりスタッフへの負担はもとより夜中までおよぶ治療は患者への負担を強いることになった。普及活動による治療件数増加に対応するためには当時の体制では不可能であり、2022年3月にその問題を解決すべく2台目となるHBO装置が導入された(図5)。また、導入に伴い人員の確保も行われた。装置が2台となることで診療時間内に治療件数が10件まで可能となった。仮にそれ以上の件数となってもそれまでと比較すれば早い時間帯で治療を終えることが可能となり、件数の増加に伴い持ち上がった問題は、HBO装置を新規に導入したことにより改善された。

6. 考察

HBOの診療報酬改定は装置保有施設から待ち望まれたものであり、改定後大きな影響を与えることとな

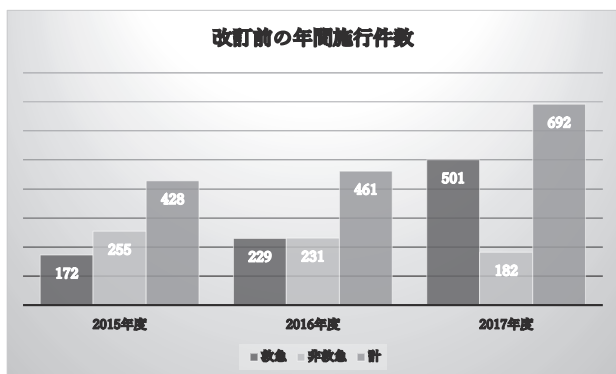


図2：症例数の多かった診療科への普及活動結果

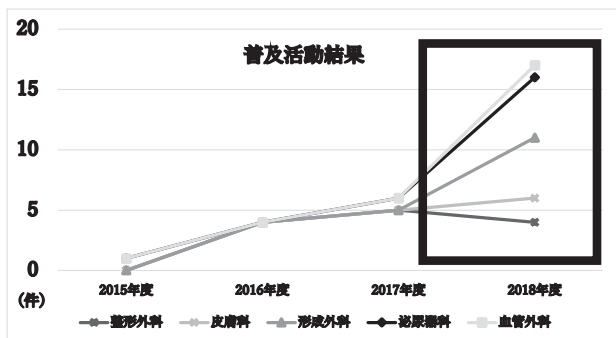


図3：症例数の少なかった診療への普及活動結果

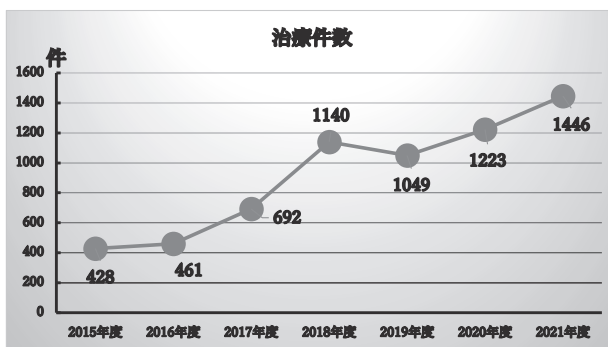


図4：治療件数の推移



図5：HBO装置2台目を導入

った。当院も例外ではなく、結果からわかるように症例数の大きな増加をきたすこととなった。しかし、これは単に診療報酬改定だけが要因ではなく、それまでに行っていた院内でのHBO普及活動の成果が大きいと考えられた。長年HBOを保有していた当院であっても院内での普及は限定された診療科のみであり、有効な治療であっても知名度は高くないと言わざるを得なかった。それを改善すべく院内での普及活動を行ったところ、症例数の多かった診療科のみでも件数は増加し、それ以外の診療科でもその傾向は同様であった。件数の上昇が一時的なものではなく、現在までの増加の推移からHBOは認知度こそ低いですが、普及活動により周知されればその有用性が認められるのではないかと考えられた。件数の増加は良いところばかりではなく、増加による治療時間の超過という問題を生み出すことにもなったが、これは装置の新規追加という形で解消された。HBO治療件数の増加に対応するためには適切な装置の台数が求められる。これは当院

だけでなく、HBOの件数が増えた施設では同様ではないかと思われる。今後ますますHBOの普及を進めるにあたって、今回2台目の装置を購入できたことは診療報酬改定はもちろんだが、これまでの普及活動などの軌跡がもたらした結果である。体制の整った中で今後も安全でより良い治療を提供できるよう、専門医、専門技師を中心にHBO業務に臨んでいきたいと考える。

本論文の執筆に際し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

参考文献

- 1) 今日の臨床サポート 診療報酬点数 J027 高気圧酸素治療 (1日につき)
https://clinicalsup.jp/jpoc/shinryou.aspx?File=ika_2_9_1_1%2fj027.html accessed Apr 27,2023